



輪をつながりのあるクラスを目指して
二川小学校 五年 原田 楓莉

私は宿泊体験学習で、諫早青少年自然の家へ行きました。ここでは、イニシアティブゲームや沢登りを体験して、クラスの絆や友情を深めました。特に、活動を通して学んだことは、男女関係なく接する大切さと協力し合う大切さです。みんながキャンプファイヤーの火を囲んで、確かめ合った友情は今でも大切な思い出となっています。

十一月のある日、先生が、「あのときの熱い気持ちを忘れてはいませんか。」と私達に問いかけました。私ははっとしました。

今の自分やクラスのみんなを振り返ると、学級目標である「輪」のつながりがどんどんうすくなっていくような気がしました。例えば、学級みんなが遊ぶ学級遊びの日です。一緒に遊ぶときに、ささいなことでも男女が言い争いになったり、遊びがうまく進まなかったりすることがよくありました。学んだことを私たちは生かすことができていないんだと思いました。自分の

ことばかりを考えたり、男子は男子、女子は女子という考えで行動したりする人が多いからだと思います。

私は、もう一度宿泊体験学習の自分たちを思い出しました。みんなが笑顔でみんなが本当に楽しそうでした。苦しいときもみんなが声を掛け合っていて、手を取り合っていて乗り越えています。今の私達には足りない「友達を思うやさしさ」があったと思います。

これからは、男女関係なく遊んだり、学級目標に向かって自分たちを高めたいです。そのためにも、一人一人が意識して声を掛け合ったり、協力し合ったりすることが大切です。相手を思い、尊重することが大切です。そうすることで、私はみんなが笑顔になると思います。この思いを忘れずに、学校生活を送りたいです。

【先生のコメント】

宿泊体験学習では、「仲間と声を掛け合い、励まし合うこと」「男女関係なく接して、力を合わせる」との大切さを学びました。みんながその大切さを実感できたこの宿泊体験学習は、とても価値のあるものです。学んだことを生かすには、楓莉さんの言った通り、学校生活の中でも、声を掛け合っていて、相手を思いやるのが大切です。みんなが話し合いを重ねることで、その大切さや難しさを感じましたね。これからも、一人一人がその思いを大切にする事で、さらにつながりのあるクラスになると先生は信じています。

「人権の花」に思いを込めて

11月25日、二川小学校3年生の児童47人が、人権の花「ひまわり」の種と、土にかえる自然にやさしい素材でできたエコ風船を、大空へ飛ばしました。

この活動は、児童たちが協力し合いながら花を育てることで、生命の尊さを実感し、優しさと思いやりのある豊かな心を育むことを目的としています。

児童たちは6月から育てたひまわりの種を収穫し、それぞれの思いを込めたメッセージをエコ風船に付け、大空に飛ばしました。大空のかなたへ飛んでいくエコ風船を、児童たちはいつまでも見送りました。



▶カウントダウンをして、一斉に風船を飛ばしました



◀KENまるる君・あゆみちゃんも一緒に見届けました

みやま文芸
青門瀬高俳句会

鳩のひと声川面走りけり

冬麗の空キャンバスに鳶舞う

令和世の急なる動き年の暮

水洩や季節はずれの杉の花

シンフォニーホールにオーボエのソロ街師走

絵手紙で届く冬菜のお礼かな

星たちは賢治の涙冬木立

みやま短歌会

触れてみし南極の氷蜜にして

プチプチ弾ける音の確かさ

老い果てしわが身にあれば仕方なし

車運転免許返納す

鳳凰がはねをのびしたその姿

月に群雲秋天にあり

老いて今人こそ宝ときめきて

いつもの四人で「秋穫祭」へ

恙無く老いて子の年七度目の

ささえのありてケアバスに乗る

吉岡 木骨

池田 芳水

高巢 幸子

阿部 和子

戸塚貴美代

橋本美恵子

河野 辰男

宮本 明生

西村 嘉彦

宮地幸二郎

中村 智美

三栗野ミユキ

農業
松尾 雅司さん
(40歳)

市の特産品である、みかん、たけのこの栽培に携わっている松尾雅司さん。以前は薬品販売の仕事をしていたが、3年前に地元山川町に戻り、祖父の代から続く農業を始めた。

「正直、みかん農家を継ぐつもりはなかったです。しかし、親の手伝いをしているうちに、『農業独特のゆっくり時間が流れていく感じが良いな』と思うようになりました。同級生が地元で農業をしていたこともあり、スムーズに始めることができました」

失敗は成功のもと

農業を始めて3年目。まだまだ駆け出しだと語る松尾さん。

一人前の農家になるために、学ばな

いといけないことも多い。

「毎年、どの木にもみかんがバランスよく実るように剪定・摘果が必要。いざ始めてみると、どこまで切り、摘んでいいのか不安になります。失敗を重ね、次に活かし続けることで、自分の経験値を上げることができると思います」

また、今年は台風で悩まされたとの事。風が強いと、成長していない小さな木が揺れて、みかん同士がぶつかり傷んでしまう。対策として揺れないようにするために小さい木は竹で固定する。

「大変なことも多いですが、自分たちが作ったものが『おいしい』と言われると、やはり嬉しいですし、苦勞が実る瞬間です」

一段二段ステップアップ

「自分が作ったもので、1人でも多くの人を『幸せ』にしたいです。そのためにも毎年満足のいくみかんを作り続けることが今の目標です。両親や仲間たちに教わりながら、これからも農業を続けていきます」

頼もしく語ってくれた松尾さん。一人前の『山川みかん』の作り手を目指して、着実に歩を進めていく。



まつお まさし
両親と3人で農業を営む。JAみなみ筑後青年部に所属。山川町甲田。
【みやま市にひとこと】
自然が豊かで、人が優しいです。
【好きな言葉】
晴耕雨読